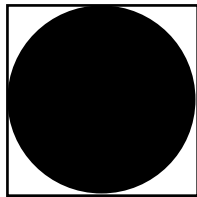


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 153

2018. 7

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 北川智久

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

第5期理事長就任にあたって

公益社団法人 日本美術教育連合理事長 大坪圭輔

この度、第4期に引き続き第5期の公益社団法人日本美術教育連合の理事長に就任いたしました。何卒よろしくお願い申し上げます。これからの2年間に向けて、皆様の活発な実践や研究を基に、造形美術教育が果たすべき社会的役割を多様な領域の方々と共に追究し、普及させていきたいと願っています。

第4期の平成28、29年度は学習指導要領の改訂期に当り、他の学会や諸団体と連携し、新たな造形美術教育の展望を提言するなど、公益社団法人として為すべきことを模索した時期でもありました。また、連合が取り組む三つの公益事業、「(1) 美術教育に関する研究発表会の開催並びに研究論集等の刊行、(2) 国際美術教育学会(InSEA) 日本国代表としての国際学会開催に向けた参画寄与及び研究発表者の指導育成並びに国際学会への派遣、(3) 美術教育に関する講演会、研究会、展覧会等の開催」は、まだまだ不十分な点は自覚しながらも、多くの方々にご支援、ご参画、ご指導を頂きながら、次第にその質と規模を拡大しつつあります。

第5期の平成30、31年度は、新学習指導要領完全実施の前夜に当ります。今回の改訂は、造形美術教育関係教科の中だけの視点では量り切れない性格を有しています。教科の構造が統一的に整理され、各教科の学習において育成すべき資質・能力を一層明確して教育実践を展開することが求められています。その先には、これまでの10年の変化とは比べものにならない大規模な社会的変革が予想される2030年を生きる子ども達の姿があります。そして、造形活動や美術によって育まれる豊かな創造性は、共生やコミュニケーションをキーワードとするこれからの社会の基盤となり、AI(人工知能)では為し得ない人間としての可能性を広げることになると考えます。未来を考える時、我々が為すべき仕事は無限に広がっていきます。造形美術教育の歴史的研究も理論的研究も、もちろん実践的研究もすべては、未来を生きる子ども達の為にあることを今、再確認したいと思います。未来を創造し、たくましく生きる子ども達の学びと成長のための造形美術教育が、これまで以上に必要とされる時代でもあるのです。

第52回 日本美術教育研究発表会2018 案内

1. 日時 平成30年10月14日(日) 9時～17時30分(予定)
2. 会場 東京家政大学板橋キャンパス 16号館
〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1
3. 主催 公益社団法人 日本美術教育連合(InSEA-JAPAN)
4. 後援 文部科学省(申請中)

「奈須正裕先生記念講演会」報告

事務局 水 島 尚 喜

平成30年5月13日、聖心女子大学宮代ホールに上智大学総合人間科学部教育学科教授奈須正裕先生をお迎えし、記念講演会が開催されました。奈須先生は、今次の中央教育審議会教育課程委員の中心メンバーで、コンテンツベースからコンピテンシーベースへの舵取りを先導された方です。現在、我が国で最も輝いている教育学者といえるでしょう。二十代の頃よりリードやアイスナー等の学説にも精通されていて、造形美術教育学への造詣も大変深い碩学です。

今回の記念公演は、「資質・能力の育成と美術教育」をテーマに、グローバルな観点も含めこれからの造形美術教育にとって大切な支援メッセージを頂戴いたしました。浅学の身に、奈須先生のお話の全体像を纏める力量はございませんので、当日配布の資料転載のお許しをいただきました。ぜひご覧おきください。

個人的には、「産業主義に対して一定の距離を保ちつつも、造形美術領域以外への波及戦略を構築する必要がある。」とのお考えに、頷首いたしました。参加者の皆さんからも、とても分かり易く造形美術教育の本質に迫るお話に、満足と賛同の声を伺うことができました。



今回改訂の特徴

- ▶ 科目編成や内容に関わって:
道徳の教科化
プログラミング教育の必修化
小学校における英語の教科化
高校における科目の全面的再編成
...小中の在来の教科等の内容・時数は基本的に変化なし
- ▶ 学力論に関わって:
資質・能力を基盤とした学力論への拡張
- ▶ 教育実践に関わって:
主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点)
カリキュラム・マネジメントの展開

1

マシュマロ・テスト

- ▶ Mischel が、4歳児に行った実験(1970年代)
- ▶ 今なら1個、15分待てたら2個のマシュマロがもらえる
- ▶ 1/3の子供が2個のマシュマロを獲得
- ▶ 成人後の追跡調査:
①身体的・精神的健康、青少年期の問題行動・社会適応を予測
②大学進学適性検査(SAT)のスコアに影響(2400点満点中210点の差)
- ▶ 非認知的能力の重要性に加えて、幼児教育の質が生徒にわたる可能性を示唆
- ▶ 非認知的能力の教育可能性:感情・行動の自己制御...「学びに向かう力」の核心

5

なぜ、10ヶ月に渡って教科等別の部会が立ち上げられなかったのか？

- ▶ 「指導すべき個別の内容項目の検討に入る前に、まずは学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理する必要がある。その上で、整理された資質・能力を育成するために「何を学ぶのか」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶのか」という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要」

教育課程企画特別部会「論点整理」(2015年8月)より

2

メタ認知

- ▶ 私の思考・知識・感情・行動を眺めているもうひとりの私
①オンライン・モニタリング:自分の内面や進行中の認知作業を常時正確にモニタする能力(スキル)
- ②メタ知識:自分の心理的リソースに関する正確な理解・把握(知識)
- ▶ メタ認知を切実に必要とする(メタ認知が育つ)学習経験:
①自ら発想・構想し、計画し、実行し、評価する学習
②失敗や困難を引き受け、問題解決する学習
③他人との比較や「正解」に拘泥することなく、現状における自分のリソースを冷静に見つめ、そこから最善のものを生み出すことで、自身を高めていこうとする学習

6

学力論の2つの系譜

- ▶ 「内容」(領域固有な知識・技能)中心
コンテンツ・ベース
「何を知っているか」
A問題の学力
- ▶ 「資質・能力」(思考力、意欲、社会スキル)中心
コンピテンシー・ベース
「どのような問題解決を現に成し遂げるか」
B問題の学力、PISA型学力 → 高大接続改革

3

メタ学習:マインドセット(Carol Dweck)

- ▶ 1980年代から、知的能力に関する2種類の個人的理論・信念(personal theory)として提起してきたものを拡充
- ▶ 認知、感情、動機づけ、行動の選択・持続、成果を左右する
①Growth-mindset=拡大的知能観=学習目標
学び成長することが目標、努力は常に価値がある
- ②Fixed-mindset=固定的知能観=遂行目標
自身や他者に自分の有能さを提示することが目標
努力は成功した場合にのみ価値がある
失敗を予測すると、努力を差し控えたり隠したりする
- ▶ 知識観の刷新:知識はよりよいものへと更新し続けられる
- ▶ マインドセットは変えられる:主観的な信念・思い込み

7

コンピテンシーへの注目: 学習・知識に関する科学的研究を踏まえる

- ▶ McClellandの発見:コンテンツ・ベース・テストの成績は将来の成功を予測しない(1970年代)
- ▶ 成功を予測した指標:達成への意欲、感情の自己調整能力、問題解決力、対人関係能力、コミュニケーション能力...
- ▶ 人事管理・組織経営へ:コンピテンシー・マネジメント
- ▶ 高等教育に影響、さらに初等中等教育へ...
- ①優れた問題解決に必要な要因=コンピテンシー(資質・能力)による学力論の再定義
- ②知識・技能の質的改善:要素的知識から自在に活用の効く知識=概念・高度に精緻化(elaboration)された知識
- ③非認知的能力の学力論への組み入れ要求

4

なぜ今、コンピテンシー・ベースなの？

- ▶ 知識基盤社会=知識を自在に「活用」したり、新たな知識を自力で生み出すことが求められる社会
- ▶ 社会構造の変化:産業社会→知識基盤社会
①産業界が求める人材の変化:定型から非定型へ
- ②終身雇用・年功序列の崩壊:自分の生き方を独自に模索し、切り拓く必要性
- ③答えのないグローバルな課題の出現と深刻化:
環境、エネルギー、貧困、多文化共生→ESD
- ▶ 「答え」なき時代の教育とは？
- ▶ 志と判断力、他者との協働、問題の発見・解決、新たな価値の創造がすべての人に求められる

8

コンピテンシー・ベースへと発想を転換する

- 「内容」を通して「資質・能力」を育成する
- 「資質・能力」が身に付き、自在に駆使できれば、「内容」に関わる細かなことは、忘れてもいい！
- 「内容」の位置付け
 - ①「資質・能力」育成に必要なイグザンプル
 - ②「習得」それ自体が内在的に価値がある
- 今回は「内容」の削減はなかった
- 資質・能力育成を考えると Less is more が一般的
- 将来的には、「内容」の削減が課題・・・削減原理の確立
- 原理もなく減らすと、「概念」が形成されず「学力低下」に
- コンピテンシーをコンテンツに優先させるカリキュラムへ

9

表現と思考、学びにおける身体の役割

- 「表現と思考」の重視
 - ①思考したものを表現する
 - ②表現することで思考が深まる
- 画家は見たものを描くのか、描くことが出来るものを見るのか(E. Eisner)
- 学びにおける身体やモノの重要性 cf. アフォーダンス
- 遠感覚の圧倒的優位から近感覚の復権・共存の教育へ
- 幼児教育との連続性
- AI、VR、ロボティクス時代における身体・近感覚の重要性
- 「読解力」概念の拡張：テキスト・オンラインからの離脱

13

子供の側に立ち、コンピテンシー・ベースで進めてきた

- その子ならではのものを大切に、適切に導くことで、美的創造の世界へとつながってきた
- 最も早い時期から、学習指導要領を資質・能力を基盤としたものへと転換した図工・美術
- 自由度の高さがカリキュラム・マネジメントを促してきた
- 一通り経験することの意味と、中途半端になることのリスク
- 内容・題材と資質・能力による複眼的なカリキュラム開発を
- 長いスパンの中で、いつ、どの内容・題材を通して、どのような資質・能力をどの水準で段階的に育成していくか

10

近代的思考を補完する「野生の思考」

- 現在の教育課程上、唯一「造形遊び」でこそ確かに培われる「野生の思考」(プリコラージュ)という思考・判断・表現の力
- 認知的であると同時に感性的で身体的な資質・能力
- 知識基盤社会の産業・社会デザインを支える最も高度で有望な資質・能力・・・育成の体制を早急に整備する必要
- 近代を相対化し、乗り越えていく概念的な負荷としても重要
- 国語、音楽、家庭にも十分に可能性はあるが、不十分
- 図工・美術がリードし、要となって推進してほしい
- 発想・構想を造形に留めず、転移・汎用化する工夫が課題
- 「表したいものを表す」とのバランス、コントラストを経験することの大切さ・・・さらに教師・子供の双方が自覚的に

14

アクティブ・ラーニングとメタ認知、メタ学習

- 一人ひとりが主体的で深い学びを自然と行う構造を教科の基底にもつ図工・美術の圧倒的な強み
- 個の自律・充実あってこそその対話・協働：「奈良の学習法」
- 深く自己と向かい合う経験：「孤独の味わい」(重松鷹泰)
- 相互評価における Appreciation という評価観の経験
- メタ認知育成の格好の場：振り返り、記録の重要性
- Growth-mindsetを実感し、維持する格好の場
 - ①唯一絶対の「正解」はない、多様な解法があり得る
 - ②段々と完成度を上げていけばいい、上げていける
 - ③失敗や挫折は、次に何をすべきかを教えてくれる情報源
 - ④他者との比較ではなく、以前と比べての自己の成長に注目

11

クラフト、デザイン、ものづくりの教育

- 算数→数学の可能性・・・図工はどうする？
- 技術と家庭の円満離婚の可能性
- 広義の技術教育(クラフト、デザイン、ものづくり)の必要性
- STEAM(Science, Technology, Engineering, Art and Mathematics)、STEMの教育
- AI、ロボティクス、付加価値としての美しさ、快適性、個性、相手意識
- 商業主義・産業主義への警戒と美的生活の創造・防衛・・・アーツ・アンド・クラフト運動、民芸運動、スロイド
- 美しいものを選び、組み合わせ、大切に使う教育
- Fine Art と Craft の関係、バランスをどう考えるか
- 大正自由教育の光と影・・・ガラパゴスの作文教育

15

図工・美術ならではの学力・強み

- 「感性」「創造性」という学力：その育成の要としての位置と役割
- 音楽、文学、ダンスなどとの連携と役割分担
- 「感性」「創造性」とは何か、造形でこそ培われる「感性」「創造性」とは？
- 表現と鑑賞で培われる「感性」「創造性」は同じなのか違うのか
- 「話し合い」はいくつある？
- 図工・美術でなされる話し合いの特質は？
- 汎用的・教科横断的だからこそ大切になる教科の本質・強み

12

これからの時代に求められる教育 (学習指導要領 前文)

- 一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

16

平成30年5月13日、聖心女子大学宮代ホールにて第8回定時総会を開催し、公益社団法人として第5期（平成30、31年度）がスタートいたしました。ここにその議事録を掲載いたしますが、議案書については公益社団法人日本美術教育連合ホームページ(<http://insea-in-japan.or.jp>)をご参照ください。本ニュースには議事録と議案書の一部である「第5期活動方針」、「平成30年度事業運営計画」、「平成30年度予算書」のみを掲載します。

また、運営委員会委員については、同日開催の第5期理事会臨時理事会で選出し、総会に報告されましたが、その後、6月3日開催の第5期平成30年度第3回理事会において各委員の担当が決定され、理事会・運営委員会の構成が確定しましたので、その一覧を総会での「配布資料1、2」に代わるものとして掲載いたします。

公益社団法人 日本美術教育連合 第8回 定時総会議事録

- 1 総会開催の決定
平成30年3月11日開催、第4期平成29年度第7回理事会
- 2 総会議案の決定
平成30年4月7日開催、第4期平成30年度第1回理事会
- 3 総会開催通知及び議案の公開
平成30年4月8日、ホームページ掲載及び同日発行日本美術教育連合ニュース152号による。
- 4 開催日時
平成30年5月13日（日） 午後1時30分～2時20分
- 5 会 場
聖心女子大学宮代ホール 東京都渋谷区広尾4-3-1
- 6 開会の言葉
結城孝雄事務局長により開会の宣言があった。
- 7 代表理事挨拶
大坪圭輔代表理事より、第4期の下半期にあたる平成29年度の評価を基に、第5期の方針を確認すべく、総会での議論をお願いするとの挨拶があった。
- 8 総会成立宣言
結城孝雄事務局長より会員数237名に対して、委任状による出席100名、出席者25名、計125名の出席となり、定款第18条により、総会が成立した旨説明があり、確認された。
- 9 議長選出
定款第16条に基づき、小林貴史氏が議長に指名された。
- 10 議事録署名者指名
代表理事、理事、議長、監事、畑山未央会員が指名された。

11 審議事項

第1号議案 第5期役員選出の件

①役員選出選挙結果報告

藤崎典子選挙管理委員長より、第5期役員選出選挙の経緯とともに、有権者数222名、投票総数102票、無効投票数0票、有効投票数102票との投票内容が報告された。その結果、得票数上位5名の山口喜雄(55票)、結城孝雄(55票)、西村德行(51票)、奥村高明(49票)、大坪圭輔(48票)の5名が理事候補となる旨、説明がなされた。

②理事選出

大坪圭輔代表理事より、「議案書別紙1」を基に、選挙結果に基づき以下の5名について第5期理事候補者として提案がなされ、順次審議にかけられた。

- ・大坪圭輔(重任、任期:平成30年5月14日から平成32年第10回定時総会まで)承認。
- ・奥村高明(新任、任期:平成30年5月14日から平成32年第10回定時総会まで)承認。
- ・西村德行(重任、任期:平成30年5月14日から平成32年第10回定時総会まで)承認。
- ・山口喜雄(重任、任期:平成30年5月14日から平成32年第10回定時総会まで)承認。
- ・結城孝雄(重任、任期:平成30年5月14日から平成32年第10回定時総会まで)承認。

以上、選出者はその場で就任を承諾した。

③監事選出

大坪圭輔代表理事より、「議案書別紙2」を基に、選挙結果等を参考に以下の2名について第5期監事候補者として提案がなされ、順次審議にかけられた。

- ・榎原弘二郎(新任、任期:平成30年5月14日から平成32年第10回定時総会まで)承認。
- ・宮坂元裕(重任、任期:平成30年5月14日から平成32年第10回定時総会まで)承認。

以上、選出者はその場で就任を承諾した。

ここで、小林貴史議長は第5期理事会臨時理事会開催の為、総会審議を10分間の休憩とする旨宣言した。10分後、小林貴史議長は総会審議再開の宣言をし、大坪圭輔代表理事は、別室で開催された第5期理事会臨時理事会の審議結果について、以下の通り報告を行った。

④代表理事選出報告

理事互選により、「配布資料1」に記載のように、第5期代表理事として大坪圭輔理事(重任、任期:平成30年5月14日から平成32年第10回定時総会まで)を選出した。

⑤運営委員選出報告

第5期運営委員として「配布資料2」に記載の17名(任期:平成30年5月14日から平成32年第10回定時総会まで)を選出した。

第2号議案 平成29年度事業報告の件

①第4期活動報告

大坪圭輔代表理事より、「議案書別紙3」を基に、平成28年度及び平成29年度の第4期全体の活動について報告がなされた。

②理事会等事業運営報告

大坪圭輔代表理事より、「議案書別紙4」を基に、平成29年度の理事会等事業運営についての報告がなされた。

③公益目的事業1 研究促進事業報告

山口喜雄研究局担当理事より、「議案書別紙5」を基に、平成29年度の教育研究発表会などを中心とする研究局の活動についての報告がなされた。

④公益目的事業2 国際事業報告

大坪圭輔国際局担当理事より、「議案書別紙6」を基に、平成29年度の国際会議を中心とする国際局の活動についての報告がなされた。

⑤公益目的事業 啓発・普及事業報告

水島尚喜事業局担当理事より、「議案書別紙7」を基に、平成29年度の造形美術教育力養成講座を中心とする事業局の活動についての報告がなされた。

以上について審議の結果、平成29年度事業報告は原案通り承認された。

第3号議案 平成29年度決算及び監査報告の件

①貸借対照表

西村德行財務担当理事より「議案書別紙8」を基に、貸借対照表について報告がなされた。

②正味財産増減計算書

西村德行財務担当理事より「議案書別紙9」を基に、正味財産増減計算書について報告がなされた。

③財務諸表に対する注記

西村德行財務担当理事より「議案書別紙10」を基に、財務諸表に対する注記について報告がなされた。

④財産目録

西村德行財務担当理事より「議案書別紙11」を基に、財産目録について報告がなされた。

⑤監査報告

北澤俊之監事より「議案書別紙12」を基に、監査報告がなされた。

以上について審議の結果、平成29年度決算及び監査報告は原案通り承認された。

第4号議案 定款の一部改定の件

大坪圭輔代表理事より、「議案書別紙13」を基に、組織の活性化を目途として、定款第22条に「5 理事は同一局担当任期を5期ないし10年を限度とする。」の項目を新設する案が提示された。

以上について審議の結果、定款の一部改定案は原案通り承認された。

報告事項1 平成30年度事業計画の件

①第5期活動方針

大坪圭輔代表理事より、「議案書別紙14」を基に、第5期活動方針について説明があった。

②平成30年度事業運営計画

大坪圭輔代表理事より、「議案書別紙15」を基に、平成30年度事業運営計画について説明があった。

以上の報告に対して、質疑は特になかった。

報告事項2 平成30年度収支予算について

①平成30年度予算書

西村德行財務担当理事より、「議案書別紙16」を基に、平成30年度予算書について説明があった。

以上の報告に対して、質疑は特になかった。

以上をもって小林貴史議長はすべての議案審議の終了と、議長の解任を宣した。

12 閉会の言葉

結城孝雄事務局長により閉会の宣言があり閉会した。

(議事録署名人欄省略)

平成30年5月13日
平成30年度第8回定時総会

報告事項1 平成30年度事業計画の件

①第5期活動方針の件

定款第3条に定める本法人の目的達成を目途として、第5期においては次の事項を活動の基本方針とする。

1. 活動を円滑に行うに必要な収支の安定、拡大を検討する。
2. 学習指導要領改訂期にあることなどを考慮し、会員及び社会にとってより有益な情報の発信を強化するとともに、実践的研究に取り組む。
3. 「美術教育連絡協議会」をはじめとする美術教育関係諸団体との情報交換、協調、協力関係を強化し、図画工作科・美術科における学習の重要性を社会に向けて発信する。
4. 日本美術教育研究発表会の拡充、『日本美術教育研究論集』編集の充実に取り組む。
5. 造形・美術教育力養成講座の拡充に取り組む。
6. InSEAにおける日本の代表としての歴史を踏まえ、海外美術教育関係者及び団体との関係を強化する。

報告事項1 平成30年度事業計画の件

■平成30年

- 4月7日(土) ☐会計監査(後期) 会場: 日本美術連合本郷事務所
- ☐第1回理事会 会場: 日本美術教育連合本郷事務所
- 4月 ☐日本美術教育連合ニュースNo.152発行
- 5月13日(日) ☐第2回理事会・第1回運営委員会
- ☐平成30年度第8回定時総会 会場: 聖心女子大学宮代ホール
- ☐第5期臨時理事会(総会休憩中に開催)
- ☐総会記念講演
 - ・上智大学教授 奈須正裕氏
 - 演題「資質・能力の育成と美術教育」
- 6月3日(日) ☐第3回理事会・第2回運営委員会 会場: 東京家政大学
- 7月 ☐日本美術教育連合ニュースNo.153発行
- ☐造形・美術教育力養成講座〈第5期〉(←内容及び日程検討中)
- 8月26日(日) ☐第4回理事会・第3回運営委員会及び論集編集委員会
- 会場: 東京家政大学
- 9月 ☐日本美術教育連合ニュースNo.154発行
- 10月14日(日) ☐第52回日本美術教育研究発表会2018
- 会場: 東京家政大学
- ☐会計監査(前期)
- 11月18日(日) ☐第5回理事会・第4回運営委員会及び論集編集委員会
- 会場: 東京家政大学
- 12月16日(日) ☐第6回理事会・第5回運営委員会及び論集編集委員会
- 会場: 未定

■平成31年

- 1月27日(日) ☐第7回理事会・第6回運営委員会及び論集編集委員会
- ・造形・美術教育フォーラム運営案・論文再査読
- ☐造形・美術教育フォーラム
- 会場: 未定 内容: 未定
- 3月10日(日) ☐第8回理事会・第7回運営委員会 会場: 東京家政大学
- 3月31日(日) ☐日本美術教育研究論集2019No.52発行
- 4月14日(日) ☐会計監査(後期) 会場: 東京家政大学
- ☐平成31年度第1回理事会・運営委員会 会場: 東京家政大学
- 4月 ☐日本美術教育連合ニュースNo.155発行
- 5月12日(日) ☐平成31年度第2回理事会・運営委員会
- ☐平成31年度第9回定時総会
- ☐平成31年度第9回定時総会記念講演会

収 支 予 算 書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,200	4,000	△ 2,800
基本財産受取利息	1,200	4,000	△ 2,800
受取入会金	45,000	45,000	0
受取入会金	45,000	45,000	0
受取会費	1,350,000	1,350,000	0
受取正会員会費	1,200,000	1,200,000	0
受取賛助会員会費	150,000	150,000	0
事業収益	700,000	500,000	200,000
受取論集広告料	150,000	200,000	△ 50,000
受取論集掲載料	550,000	300,000	250,000
受取補助金等	51,000	301,000	△ 250,000
受取寄付金	50,000	300,000	△ 250,000
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	2,147,200	2,200,000	△ 52,800
(2) 経常費用			
事業費	1,555,000	1,062,000	493,000
雑給	0	0	0
消耗品費	5,000	2,000	3,000
印刷製本費	995,000	700,000	295,000
通信運搬費	145,000	130,000	15,000
諸謝金	100,000	100,000	0
資料費	100,000	115,000	△ 15,000
会議費	210,000	15,000	195,000
管理費	762,000	1,100,000	△ 338,000
給料手当	0	0	0
会議費	5,000	200,000	△ 195,000
旅費交通費	10,000	10,000	0
通信運搬費	5,000	60,000	△ 55,000
賃借料費	400,000	550,000	
消耗品費	2,000	5,000	△ 3,000
印刷製本費	5,000	40,000	△ 35,000
支払負担金	30,000	30,000	0
計算書類作成費	300,000	200,000	100,000
雑費	5,000	5,000	0
経常費用計	2,317,000	2,162,000	155,000
当期経常増減額	-169,800	38,000	△ 207,800
当期一般正味財産増減額	-169,800	38,000	△ 207,800
一般正味財産期首残高	3,863,288	4,026,078	△ 162,790
一般正味財産期末残高	3,693,488	4,064,078	△ 370,590
II 正味財産期末残高	3,693,488	4,064,078	△ 370,590

予 算 書

自 平成30年 4 月 1 日 至 平成31年 3 月31日

公益社団法人 日本美術教育連合

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				共 通	法人会計	内部取引消去	合 計
	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小 計				
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益								
基本財産受取利息	0	0	600	600	0	600		1,200
特定資産運用益								
特定資産受取利息		0		0	0			0
受取入会金								
受取入会金	10,000	0	12,500	22,500	0	22,500		45,000
受取会費								
受取正会員会費	100,000	100,000	400,000	600,000	0	600,000		1,200,000
受取賛助会員会費	0	0	75,000	75,000	0	75,000		150,000
事業収益								
論集広告料	150,000	0	0	150,000	0	0		150,000
論集掲載料	550,000	0	0	550,000	0	0		550,000
受取補助金等								
受取寄付金	20,000	0	5,000	25,000	0	25,000		50,000
受取利息	0	0	500	500	0	500		1,000
経常収益計	830,000	100,000	493,600	1,423,600	0	723,600	0	2,147,200
(2) 経常費用								
事業費								
雑給								
消耗品費	5,000	0	0	5,000	0	0		5,000
印刷製本費	600,000	100,000	295,000	995,000	0	0		995,000
通信運搬費	70,000	0	75,000	145,000	0	0		145,000
諸謝金	50,000	0	50,000	100,000	0	0		100,000
資料費	100,000	0	0	100,000	0	0		100,000
会議費	135,000	0	75,000	210,000	0	0		210,000
管理費								
給料手当	0	0	0	0	0	0		0
会議費	0	0	0	0	0	5,000		5,000
旅費交通費	0	0	0	0	0	10,000		10,000
通信運搬費	0	0	0	0	0	5,000		5,000
賃借料費						400,000		400,000
消耗品費	0	0	0	0	0	2,000		2,000
印刷製本費						5,000		5,000
支払負担金						30,000		30,000
計算書類作成費	0	0	0	0	0	300,000		300,000
雑費	0	0	0	0	0	5,000		5,000
経常費用計	960,000	100,000	495,000	1,555,000	0	762,000	0	2,317,000
当期経常増減額	△ 130,000	0	△ 1,400	△ 131,400	0	△ 38,400	0	△ 169,800
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 130,000	0	△ 1,400	△ 131,400	0	△ 38,400	0	△ 169,800
一般正味財産期首残高	1,141,473	△ 30,000	△ 1,246,559	△ 135,086	20,706	3,977,668		3,863,288
一般正味財産期末残高	1,011,473	△ 30,000	△ 1,247,959	△ 266,486	20,706	3,939,268	0	3,693,488
II 指定正味財産増減の部								
一般正味財産への振替額								
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,011,473	△ 30,000	△ 1,247,959	△ 266,486	20,706	3,939,268	0	3,693,488

公益社団法人 日本美術教育連合 第5期 理事会・運営委員会

(任期：平成30年5月14日～平成32年5月第10回定時総会)

[理事会]

理事長	大坪圭輔
理事	奥村高明
理事	西村德行
理事	山口喜雄
理事	結城孝雄
監事	榎原弘二郎
監事	宮坂元裕

[運営委員会]

研究局	理事	結城孝雄	事業局	理事	奥村高明
	運営委員	笠原広一		運営委員	手塚千尋
	運営委員	小林貴史		運営委員	藤崎典子
	運営委員	立川泰史		運営委員	三澤一実
	運営委員	林耕史		運営委員	水島尚喜
	運営委員	藤井康子			

国際局	理事	西村德行	事務局	理事	西村德行
	運営委員	仲瀬律久		理事	結城孝雄
	運営委員	直江俊雄		事務局長	北澤俊之
	運営委員	茂木一司		運営委員	畑山未央
				運営委員	北川智久

美術教育連携交流担当	理事	山口喜雄
	運営委員	長田謙一
	運営委員	橋本光明

- ①「美術教育連携交流」担当は、教育講演会及び造形美術教育フォーラム等を企画運営する部署として、平成30年6月3日開催、第5期平成30年度第3回理事会にて設置が決定されました。
- ②各局の局員については、現在理事会で推薦及び委嘱の手続きを進めています。選任手続きが済み次第報告いたします。

幼保・小・中・高・大学教員、学生、院生、美術館関係者、画塾経営者、連合会員の皆様

事業局長 奥村 高明

公益社団法人日本美術教育連合主催 造形・美術教育力養成講座
第4期1次について（報告）

「日本美術教育連合」は内閣府の承認を得た造形・美術教育にかかわる唯一の公益社団法人です。公益事業として、連続講座を企画し、多くの方々から好評を博しています。今期も、子どもと造形表現をめぐって理解を深め、講義と演習を通して教育実践力を高める講座を実施します。現在、これまでの成果と課題を踏まえ、充実した内容の講座を現在、テーマ、日程、参加方法、参加費等について企画中です。

お知らせ

新ホームページの内容の充実に伴い、これまで連合ニュース誌面に掲載していたものを、ホームページからのダウンロードに置き換えさせて頂く部分が増えました。
今回の連合ニュースでは、次のものが対象になっています。

- ・ 定時総会議案書（p.5参照）
- ・ 理事会議事録
- ・ 入会申し込み
- ・ 日本美術教育研究発表会申し込み（p.15参照）

公益社団法人日本美術教育連合ホームページ
<http://insea-in-japan.or.jp>

※「InSEA公益社団法人日本美術教育連合」で検索するとご覧になれます。

第52回 日本美術教育研究発表会 2018

【一次案内】

公益社団法人 日本美術教育連合理事・研究局長 結城 孝雄

本法人は1965年InSEA東京世界大会の精神「国際理解と美術教育の前進」を基に組織され、今年で52回目の研究大会を迎えます。年々、発表者数が増え、研究領域も拡大しています。今日、教育のあり方が世界的規模で大きく変容を遂げようとしている中、美術教育の必要性を明確に示すことが求められています。本発表会では、それに応えるべく美術教育の理論研究を軸に実践研究をも重視してきました。従来の口頭発表（発表20分＋協議5分）の他に、①モジュール口頭発表（発表30分＋協議25分）3コマ、②発表会改善アンケート（今年度運営反省）以上実施いたします。これまでの研究発表者は関東圏はじめ北海道・近畿・四国・九州など各地の小・中・高・特支・短大・大の教員、美術館学芸員、行政職、院生・学生、韓国・中国・メキシコの教員・留学生などで、多様な内容でした。美術を通した人間形成と教育に熱意ある方々の研究発表と参加を心よりお待ちしております。

参 加 要 項

- 開催日時： 2018（平成30）年10月14日（日） 9時～17時30分（予定）
- 会 場： 東京家政大学16号館 〒173-8602東京都板橋区加賀1-18-1
経路の詳細は同大学HPを参照願います。
(<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/about/access/tabid/70/index.php>)
- 参加費等： 参加費500円（概要集代として）事前申込みは不要、会員以外の方でも参加できます。
『日本美術教育研究発表会2018概要集』をお渡しいたします。
- 主 催： 公益社団法人 日本美術教育連合
- 後 援： 文部科学省（申請中）

研究発表申込WEB入力期限 8/21（火）24：00

- 発表資格： 共同発表者も含め、全員が会員であること。入会には本会員1名の推薦が必要です。新規入会希望者は「研究発表（口頭発表）申込書」と共に「入会申込書」を本法人HPから印刷し、本事務局長宛てにお送りください。身近に会員がいない場合は、下記の問合先にご相談下さい。入会時に、入会金3,000円および本年度会費6,000円の郵便振り込みが必要です。
<http://insea-in-japan.or.jp/about.html#e>
- 発表時間： 〈通常口頭発表〉発表20分、質疑応答5分移動・準備5分〔発表者総数により変更有〕
〈モジュール発表：3組募集〉30分、質疑応答25分、移動・準備5分〔役員会で選定〕
- 発表区分： I群・II群・III群の3区分があり研究発表申込ができます。WEBサイトにご希望の発表区分を明記して下さい。
- I群：理論・実践研究論文（査読有、理論的・実践的な実証に基づいた独創的な知見を含む研究、発表投稿時に英文のサマリーが必要）
- II群：実践研究報告等（査読有、様々な教育現場での優れた実践の報告、題目のみ英文表記必要）
- III群：研究ノート（査読有、将来の研究に繋がる問題の提起、並びに先行研究や事例の紹介、題目のみ英文表記必要）
- 発表方式： 申込時に希望機器を明記して下さい。
1）液晶プロジェクター（HD-D-Sub15ピン対応）、2）実物投影機、3）機器を使用しない（Mac、HDMI変換ケーブルは、ご持参ください）
配布用のレジメまたは資料等は、40-50部程度ご用意下さい。
- 発表申込： 申込WEBサイトへの入力 期限厳守：2018年8月21日（火）24：00
WEBサイト名「第52回 日本美術教育研究発表会2018研究発表申込」
<https://kokucheese.com/event/index/528131/> サイトを開き「＊」必須項目を記入します。
- 1）氏名 11）所属／役職
2）ふりがな 12）発表時使用機器（液晶プロジェクター・実物投影機・使用しない）
3）メールアドレス 13）（公社）日本美術教育連合の会員資格の有無
4）メールアドレス（確認） 14）発表区分（I群、II群、III群）
5）郵便番号 15）モジュール発表希望（あり、枠に余裕あればあり、なし）
6）都道府県 16）発表概要文600字以内の提出 info@insea-in-japan.or.jp
7）住所 17）勤務先・職名（学生・院生は学校名・学年・専攻名なども）
8）ビル・マンション名 18）発表者全員の所属・氏名（氏名は和英表記 多数も連動表記）
9）TEL 19）発表題目／和英表記
10）FAX 20）メッセージ（懇親会参加の有無 他300字まで）
- 入力が完了しましたら、返信メールが届きます。
- 概 要 文： E-mailの送付先：info@insea-in-japan.or.jp 【氏名・所属・題目・概要文600字】
E-mailの件名に（●連合発表2018 申込「氏名」）とお書き下さい
E-mailの送信後10日以内に受付確認の返信がない場合は念のため再度送信して下さい。

備考・問合先

- 発表時程： 9月下旬発行の『連合ニュース154号』に掲載し、会員に送付する予定です。
- 問 合 先： 研究局長 結城孝雄 E-mail：takaoyuki@tokyo-kasei.ac.jp

事務局便り

■平成29年度 ご寄附の御礼

昨年度、会員及び賛助会員の皆様にご寄附のお願いをいたしましたところ、次の方より多分なご芳志を頂戴いたしました。この場をおかりして御礼申し上げます。

〈ご芳名〉 遠藤信也 様・宮崎敏明 様

■平成29年度 会員の異動（敬称略）

〈入会者〉 新川美湖・梶原千恵・茂木祥宏・山成美穂・劉栓栓

〈退会者〉 岡崎昭夫

■平成30年度 会費納入のお願い

年会費 6,000円 を 納入してください。

納付先 (公社)日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

納入期限 2018年8月24日（金）

*同封の振り込み用紙をご利用ください。（手数料は恐れ入りますがご負担ください。）

*平成19年度より会費の納入をお願いしておりますが、会員の皆様からの納入状況は決してよくありません。皆様からの会費で本会は成り立っております。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

▲3年以上の会費未納の皆様へ

*平成26度から、過去3年以上、会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。

*納入期限：2018年8月24日（金）

今回の納入のお願いと行き違いで納入済みの方には、失礼をお許しください。

■研究論集 図書館定期購読のお願い

*私たちの貴重な財産であります研究論集を大学図書館等で購入していただけますよう会員の皆様からのご支援をよろしくお願いいたします。いくつかの大学図書館様に定期購入していただいています。本法人の安定した財政運営にもつながりますので、会員皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

■お問い合わせ先：公益社団法人 日本美術教育連合 事務局長 北澤 俊之

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学文学部教育学科

TEL&FAX：03-3945-8568（研究室直通）

E-mail：kitazawa@toyo.jp